

工町有田眞平、寄送係者コシテ其文中人皇三十四代
ニ當テ五、推古天皇ヲ指シテ原無智ノ婦女子、アリ
タルハ原無智トハ休實ノ歌キヲ云、無智トハ物、慮リナ
キヲ云ヒタル者ニシテ不敬ノ罪アリトハ心得難キ旨
申立ル、雖也推古天皇ニ對シテ無智ノ婦女子ト云ヒタルハ
不敬ノ罪アリト認定ス、而シテ新聞紙ニ印刷シタル
事實ハ有田眞平寄送ノ原稿及ヒ之ヲ掲載シタル新聞紙
新聞紙ニ據テ、明瞭ナルヲ以テ、新聞紙條例第十八條ニ照
シテ罰金百十七條第一項ニ因リ重禁錮十月ニ處シ罰金四
十圓ヲ附加シ刑法第百二十條ニ依リ十月ノ監視ニ付ス
但犯罪ノ用ニ供シタル新聞紙原稿ハ刑法第四十三條ニ
因リ沒收シ印刷器ハ新聞紙條例第三十六條ニ照シ沒
収ス

新編越後國西蒲原郡小平方村
平民卯之七弟新編越後國東蒲原郡
十番町十四番地荒物渡世
志賀 廣吉
二十七年

右被告ニ對シテ檢察官ノ公訴アリタル不敬事件、遂審理處
被告ニ於テ審判日々新聞紙編輯長トシテ編輯セル明治十
六年六月廿日刊行新聞紙日々新聞第百二十七號ノ紙上社説
欄内、掲載シタル王室ノ尊榮ト人民ノ幸福トハ而立セ
メサレ可カラズト題シタル論文ハ、新編越後國西蒲原郡相
川大工町有田眞平ノ寄送ニ係ルモノニシテ其文中人皇
三十四代ニ當テ五、推古天皇、指シテ原無智ノ婦女子ト
アリタルハ其掲載ノ當時、不敬ノ言語タルヲ知ラズ
今日ニ至テモ尙其字義ヲ辨知セザル旨申立ル、雖也推古
天皇ニ對シテ無智ノ婦女子ト評語シタルハ不敬ノ言語ニシ
テ之レヲ掲載シタル新聞紙編輯長ハ有田眞平寄送ノ原稿
及ヒ之ヲ刊行セル新聞紙日々新聞ニ據リ明瞭ナルヲ以テ假
令其字義ヲ辨知セザルモ到底有罪ナルヲ免カザルコト
新聞紙條例第十八條ニ照シテ刑法第百十七條第一項ニ依
リ重禁錮十月ニ處シ罰金四十圓ヲ附加シ刑法第百二十條
ニ依リ十月ノ監視ニ付ス
但犯罪ノ用ニ供シタル新聞紙原稿ハ刑法第四十三條
ニ因リ沒收ス
(以下前同文)

時事新報

朝鮮國トノ貿易手續

我日本政府ハ去ル七月廿七日ヲ以テ第四十號ノ布告ヲ發シ來年
二月一日ヨリ朝鮮ノ貿易ハ總テ他ノ外國貿易ノ手續ニ依
ルニ改メテ其文左ノ如シ
明治十七年二月一日ヨリ明治九年(十月)第百廿九號布
告ヲ廢止候條朝鮮國トノ貿易ハ總テ他ノ外國貿易ノ手
續ニ依ルベシ
但當分ノ内各開港場ノ外長崎縣下對馬國嚴原山口縣
下長門國下ノ關門縣下筑前國博多ノ三港ニ限リ朝
鮮國貿易ニ關スル日本人所有ノ船舶ノ出入及貨物ノ
積卸ヲ許シ日本形船舶ニ限リ出港手續料トシテ正金
一圓入港手續料トシテ正金二圓ヲ徵收ス
此布告ハ實ニ朝鮮國トノ貿易ニ影響スルコト甚大ナルモ
ノト信スルガ故ニ聊カ我輩ノ所見ヲ記シテ讀者諸君ノ教
示ヲ仰カントス
抑我日本ニ於テ朝鮮國トノ貿易ハ幕政以來推新ノ後ニ至
ルマデ對馬ノ商人ガ釜山浦ニ渡リ此處ニ韓人ト少許ノ賣

買ヲ爲スノモノ事ナリシガ明治九年二月日韓ノ條約規
成ルニ及ビテ九州中國大坂地方ヨリ釜山浦ニ往來スル商
人船舶次第ニ増加シ忽チ朝鮮貿易ノ面目ヲ一新スルニ至
リタリ斯クテ我政府ハ同年十月第百二十九號ノ布告ヲ以
テ左ノ如ク朝鮮國トノ貿易手續ヲ定メタリ
自今朝鮮國貿易品ハ輸出入品トモ日本國內地ニテ諸物
品ヲ運送スルニ同條ニ相心得輸出セント欲スル物品ハ
開港場ハ稅關其他ハ出船地ノ區務所ヨリ荷物送リ狀ニ
檢印申受朝鮮國開港場派出ノ日本管理官ニ右送リ狀差
出朝鮮地方ハ輸入檢印申受日本國ニ歸著ノ後最
前出船地ニ元地ニ右送リ狀可届候朝鮮國ヨリ輸出シ
來ル物品ハ送リ狀ニ管理官ノ檢印申受日本國各地ニ陸
揚セントスル節右檢印有之送リ狀ヲ其地稅關又ハ區務
所ニ差シテ上陸揚揚可致候此旨布告候事
此以來元山津ノ開港アリ仁川ノ開港アリテ日本朝鮮間ノ
貿易ハ日月ニ増進シ近日ノ實況各港ノ輸出入品ヲ總計シ
テ其金額一ヶ年四百萬圓内外ニ達シ各港居留ノ日本人民
ハ其數三千五百名ニ上ルモノトナリ實ニ朝鮮貿易ハ日本
人民ニ取リテ大切ノ富源タル性質ヲ具フルニ至リタリ然
ルニ今日マデ朝鮮貿易ノ手續ヲ見ルニ前記明治九年十月
ノ布告ニ明記スル如ク万事日本内地ノ商賣ニ異ナルコト
朝鮮ノ諸港ニ往來スルコトハ必ズ日本ノ開港場ニ由リテ
稅關ノ監督ヲ受ク尋常外國行ノ手續ヲ踐ムコトヲ要セズ何
レノ津浦ヨリ船ヲ離シ直チニ朝鮮ニ渡航スルモ又直チニ
朝鮮ヨリ歸航スルモ勝手ナリ、朝鮮ニ渡航スル船ハ必ズ
シモ西洋形ノ汽船船體タルコトヲ要セズ日本形ノ商船漁舟
ニテ往來スルモ勝手ナリ、朝鮮ノ輸出入物品又ハ朝鮮
ヨリ輸入スル物品ニハ日本内地ノ商賣同様に輸出入稅
ヲ課スルコトナシ、其他開港場ニ於テ外國貿易ニ關スル一
切ノ手續ナク隨テ又一切ノ手續料ナシコレヲ簡單ニ云ヘ
バ日本人民ノ身ニ取リテ朝鮮ノ貿易ハ日本内地ノ商賣ト
比照シテ毫毛異ナル所ナカリシナリ内ニ於テ日本ノ制度
斯ノ如ク寬大自由ナルモノコレニ加フルニ朝鮮ノ制度ノ寬
大自由ナル亦決シテ日本ニ讓ラズ其開港場ニ於テ出入ノ
船舶ニ關稅手續料等課スルコトナク輸出入ノ商品ニ關稅
ヲ徵スルコトナク純然タル自由貿易ノ制度ニ似テモノナリ
シナリ左レレバヤ家ヲ出交易コト法ナリトノ醜名ヲ流シ
ル日本人民ナガラ忽チ朝鮮ノ開港場ニ集マル者三千餘人
ニシテ一ヶ年四百萬圓ノ貿易ヲ營ミ得ルニ至リタルコト是
皆日韓内外自由制度ノ然ラシムルモノナリト云テ大過ナ
カルベシ

然ルニ人事ノ變化ハ朝夕ヲ殊ルベカラズ目前朝鮮貿易ノ
一例ニテ明カニコレヲ證スベシ左レモ自由ナリ貿易
モ僅々一百日ノ間ニ内外種々ノ變化ニ據リ立テラレ俄然
其面目ヲ一新シタルノ有様ハ恰モ盛夏中ノ熱ニ苦シム
ノ際一天忽チ涼雲ヲ降ラシ雨霏霏々々人ノ面ヲ撲テ清寒感
ニ徹スルノ思アルカレザルナリ讀者諸君ノ記憶スル

如ク我日本政府ハ本年十月十五日第三十四號ノ布告ヲ以
テ「朝鮮國ニ於テ日本人民貿易ノ規則」ヲ定メタル旨ヲ公
告シタリ而シテ此規則ハ去ル十一月月初ヨリ朝鮮各開港場
ニ於テ實施スルモノニシテ中ニ就キ最モ日本商人ノ損益
上ニ關スルモノハ朝鮮各港出入ノ船舶大船ハ每噸百廿五
文(日本四十錢餘)五百噸以下ノ船ハ其半額五十噸以下ノ
船ハ又其半額ヲ課セラレ、又輸出入ノ商品ニハ貨幣書
籍農具學術用具等數種ノ物品ヲ除クノ外其元價ノ五分
一割、二割乃至三割ノ關稅ヲ課セラレ、ト等是ナリ此規
則ノ新設アリタルガタメニ從來朝鮮貿易ニ從事シタル日
本商人ガ其計算上ニ蒙ル所ノ影響ハ必ズ少小ナラザルベ
キヤ甚ダ明白ノ事實ナリシコト今又第四十號ノ布告ヲ以テ
來年二月一日以後朝鮮國トノ貿易ハ總テ他ノ外國トノ實
易手續ニ依ルベキモノトナリタリ此布告文中輸出入ノ關
稅如何ニ付テハ一言ノコレニ及ブモノナシト雖也韓人他
ノ外國トノ貿易手續ニ依ルトアル以上ハ關稅賦課ノコトモ
亦此中ニ含著スルコト論テ俟タズ或ハ強ヒテ此文ヲ解シテ
稅關ニテ輸出入ノ手續ハ他ノ外國貿易ト同一ナルモ關稅
ノ一事ニ付テハ來年二月以後ト雖也是迄ノ通り總テ無稅
ナリト云フ者アランカ我々ハ事理ニ徴シテ決シテ其然ル
ヲ得ザル所以ヲ見出スベシ何トナレバ今日以後日本諸港
ノ何様ナルコト拘ハラズ其實ハ日本商人ニ日韓ノ貿易ヲ獨
占セシムルモノト同一ニシテ斯ル制度ノ今ノ日本國ニ行
ハルベクトモ思ハレザレバナリ故ニ今回ノ布告ニ依テ來
年二月以後日韓兩國間ノ貿易ハ全ク他ノ外國貿易ト同一
ノ地位ニ立ツモノナリト覺悟セザルベカラズ政府モ亦斯
ノ如ク變化ノ急激ナルガタメ迷惑ヲ蒙ルノ人多カラント
テ察シテ此布告ノ但書ニ於テ一ノ便宜法ヲ設ケ當分ノ
内嚴原下ノ關門縣下三港ニ於テ朝鮮貿易ニ關スル日本船
舶ノ出入并ニ貨物ノ積卸ヲ許シ殊ニ日本形ノ船舶ハ出入
港ノ手續料モ一二圓ノ小額ヲ徵收スルコトヲ定メテ此便
宜法ハ朝鮮貿易ヲ獎勵スルニ於テ其功能必ズ洪大ナルベ
キヤ固ヨリ疑ヲ容レズト雖也到底此種ノ便宜法位ニテハ
未タ以テ日本商人ヲシテ二月以後朝鮮貿易ノ艱難ヲ忘レ
シムルコト足ラザルヤ甚ダ明白ノ事實ナルベシ我輩ガ本年
十一月初旬以來朝鮮國トノ貿易ハ三伏ノ熱ヲ出テ、忽チ
冰雪ノ中ニ立ツノ思アリト云フモ蓋シ大過ナキ評言ナリ
ト信スルナリ

電報

○十一月三十日龍動電 日耳曼皇帝ハ西班牙王ニ向テ電
信ヲ以テ同王ニ「マドリッド府にて日耳曼皇太子ヲ優待シ
たるを謝し且つ國王に對して永久友誼を保たんとするの